

「配当の効果」が期待される オーストラリア株式

オーストラリア株式の配当利回りは4.4%と米国や日本の国債利回りや株式の配当利回りを大きく上回っています(左図、8月26日現在)。日本や欧州でマイナス金利政策が続くなど、世界的に低金利環境が続く中、相対的に高い配当利回りが期待できるオーストラリア株式の魅力が高まっているとみられます。

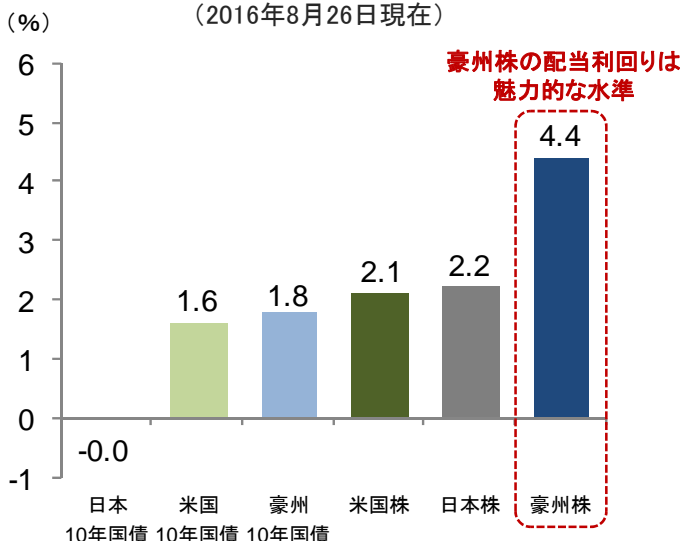
オーストラリア株式の配当利回りが高い背景として、配当金に対する課税が「インピュテーション方式」であることなどが挙げられます。インピュテーション方式とは株主の受け取る配当金に対して、法人税相当額を税額控除する課税方式のことです。これにより、法人税と配当所得税の二重課税が一部解消されることから、企業は株主還元の効果を考えて配当金を多く支払う傾向があるとされています。

配当によるオーストラリア株式のパフォーマンスの押し上げ効果を見てみると、2001年1月末から2016年7月末までの約15年半でオーストラリア株価指数(配当除く、豪ドルベース)が約1.7倍に上昇した一方、配当を含むオーストラリア株価指数は約3.2倍に上昇しました。こうしたことから、「配当の効果」によるパフォーマンスの上乗せが大きかったことが分かります(右図)。

足元のオーストラリア株式市場は、主要輸出品目である鉄鉱石価格の上昇や、8月にオーストラリア準備銀行(中央銀行)が今年2度目となる利下げを実施したことなどがサポート要因となり、堅調に推移しています。今後については中国や欧州の景気減速懸念、米国や欧州などで予定されている選挙、米国の金融政策の動向などが投資家心理を左右する要因となるとみられるものの、世界的な低金利環境が継続する中、相対的に配当利回りが高いオーストラリア株式は引き続き選好されやすいと考えられます。

利回り水準の比較

(2016年8月26日現在)



オーストラリア株式の配当の効果(現地通貨ベース)

(2001年1月末～2016年7月末)



利回りは切捨てにて端数処理しています。 豪州株:S&P/ASX200指数、米国株:S&P500指数、日本株:TOPIX

信頼できると判断した情報を基に日興アセットマネジメントが作成。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。